

# 勝林寺寺報

平成28年3月1日

人生の五計  
かつてある書物を通して、人生の五計といふことを学んだことがあります。人生生活を営むにあたって、五種の設計、計画が大切であるという教えです。今にして時に思い出して、わが身の在りようを反省することです。

その人生の五計とは、今はいささか私なりの理解を加えたうえで申すのですが、心計、生計、家計、老計、死計の五計です。その心計とは、それぞれの人生に対する基本の構え、心の姿勢をいいます。生計とは、自分がどう身をして、収入を得て、日暮らしするかという事です。家計とは、家庭経営の計画のこと、夫婦、親子がいかに円満に生活するかということです。老計とは、いかに上手に年をとっていくかということ、これは生きている限りだれもが通つてゆかねばならない道です。そして死計とはいき死を迎えるかということで、これは人間にとつては最大の課題であります。

そこで思うことですが、すでに人生の最終段階に入つた私としては、生計や家計は若い者にまかせその助けを借りるほかはありません。あとは老計と死計が問題です。

老計については、老いを受け身に考えずに、常に前向きに捉えて生きたいのです。日本の言葉では老という字を長者とか老中などと、それを「すぐれる」という意味に用います。老害

などといわれぬよう、いかなることがあろうとも、いつそう心の垢を洗い流して、いつも心中を静謐（せいひつ）に保ちつつ、一輪の寒梅の如くに生きてゆきたいものです。

そして死計については、まあこれはそれぞれが自分の業を背負う限り、その時になつてみなといとわかりませんが、生きたようにしか死ねないものだと思つております。あとはただ、いいよお念佛を申しつつ、何もかも仏の心におまかせするよりほかはありません。

（信楽峻麿遺稿法語集より引用）



などといわれぬよう、いかなることがあろうとも、いつそう心の垢を洗い流して、いつも心中を静謐（せいひつ）に保ちつつ、一輪の寒梅の如くに生きてゆきたいものです。

そして死計については、まあこれはそれぞれが自分の業を背負う限り、その時になつてみなといとわかりませんが、生きたようにしか死ねないものだと思つております。あとはただ、いいよお念佛を申しつつ、何もかも仏の心におまかせするよりほかはありません。

（信楽峻麿遺稿法語集より引用）

## ノ案内

### 春彼岸会法要

勝林寺の本堂に春を告げる「春の彼岸会」をお勤めいたします。しばらく無沙汰していた本堂の阿弥陀さんに皆でお参りいたしましょう。

日時 平成二十八年三月二十一日(月)

\* 本年は、春分の日ではなく、その翌日の振替休日にお勤めいたします。

(初午祭は、前日まで終了します。)

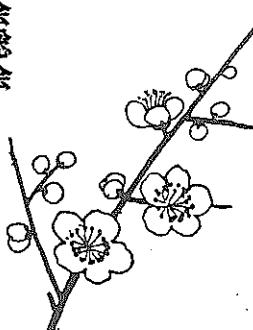
午後二時より

内容 お勤め 「正信偈」  
法話 講師 勝林寺住職



### 勝林寺仏教婦人会総会

物故者追悼法要・会員作品展の開催



日時 平成二十八年三月二十一日(月)

午前九時三十分より

内容 報告総会  
物故者追悼法要

記念法話

アトラクション 琴の演奏会

懇親会

葬儀

\* 終了後、春彼岸会にもお参りください。

\* 詳しくは、別紙案内ちらしをご覧ください。

## 三月 勝林寺 予定

二日(水) 西本宅 三回忌法要

五日(土) 田中歳康宅 忌明法要

六日(日) 数森元博宅 三回忌  
出石但東仏教会 研修会

三日(日) 永井五生 七回忌

二一日(月) 谷垣暎子宅 二五回忌

二五日(金) 兵庫教区 組長会

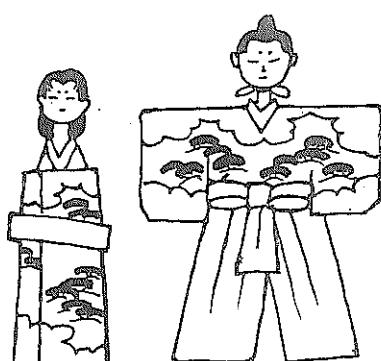
二六日(土) 宮島小好宅 三回忌

出石組 組内会

みのりを聞く会

二七日(日) 宮嶋大樹宅 忌明法要

### 人生の五計



(敬称略)

このお経には、お釈迦様がご存命中に、インドのマガダ国で起こった事件について經緯が述べられています。当時、この国は中部インドの舍衛国と並ぶ大国で、王様はビンビサーーラという方がありました。この王様の治世のなか、王の一族に大事件が起きました。マガダ国の太子であるアジャセ（阿闍世）は、ダイバダシタ（提婆達多）に「王の座を奪うには、王夫妻を幽閉し、あなたが王につくのだ」とそそのかされて、父である国王を牢獄に閉じ込めたのです。悲嘆にくれた母であるイダイケ夫人は、密かに食物などを運ぶのですが、すぐに露見し、夫人もまた別の牢につながれてしまいます。イダイケは、この不運を嘆き、当時、「説法中のお釈迦様に訴えます。お釈迦様は、獄中に慰問され、まずイダイケ夫人の長々とした愚痴を静かに聞いてあげます。そのうえで、お釈迦様は、苦惱の人々が世の中には満ち満ちていること、そして、その多くの愚痴な人々の救われる道、この道を、「観無量寿經」「大無量壽經」「阿彌陀經」という三部にわたるお経でお説きになりました。イダイケは、その中から特に阿弥陀仏の極楽淨土に生まれたいと訴え、そこに行く方法を説きしめされるようにお釈迦様に懇願されました。

質や能力から九種の分類があることを説かれ、このわたしはその下品下生にも当たらないといわれる。そのわたしを救おうと永遠の昔から「南無阿弥陀仏」と呼び続けてくださるのが阿弥陀様であり、こんなわたしでも善き人（善知識）の教えに出会い、南無阿弥陀仏の念佛を唱えるならば、極楽往生することができると説かれたのです。さて、このお念佛を唱え、だれもだれも喜び合つてお念佛の世界で生きましょようと進めるのが「阿弥陀經」です。この阿弥陀仏の願い（本願）と、その本願成就（どう願われ、どうできあがつたか）を「淨土の眞実」として示したのが「大無量壽經」です。



(文責 前住職)

法語カレンダー—3月（HPより一部抜粋）

勝林寺仏教婦人会の役員改選がありました。この役員改選だけは、何年たつても慣れなくて、二年にして一度胃の痛い思いをします（笑）どこの団体でも同じでしようが、役員をお願いすると「協力はしますが、役員は・・・」と皆さんおっしゃいます。その気持ちはよくわかります。ですから、それを曲げて、無理なお願いをするのは、とても心苦しいことです。昨年末から、すこしずつ人選をはじめ、一月に入り旧役員さんの協力を得て、一人ずつお願ひコールをはじめます。こちらの思いを懸命にお話し説得します。白羽の矢を立てられた方もたいへんです。少々断る理由を挙げても、ちょっとやそっとではゆるがぬ強さで迫られますから（笑）ある方は『もう坊守さんに声をかけられたらにげられへんで』って言わされました」と苦笑しながら引き受けてくださいます。一月中旬、ようやく六名の役員さんをお願いできました。早速先月の評議員会で新役員が承認され、無事に婦人会のバトンが引き継がれ、これで二年間は私の胃も安泰です（笑）会の中で、旧役員を代表して前会長さんが「役員をお引き受けしたこの二年間は、私にとって、とても楽しい二年間でした」と挨拶してくださいました。少し大げさに盛つて下さっているとは思いますが、とてもうれしくありがたい気持ちになりました。仏婦の役員さんは勿論、総代さん、仏壯の役員さん、法輪会の世話人さんは、自分のこと家族のこと仕事のこと地域のことなど、それぞれにお忙しい方ばかりですが、時間を作つて寺のために尽くしてくださいます。おかげで、子どもたちからお年寄りまで仏法が届き「いつも仏様に願われている身であることがあります。本当にありがとうございます。（文責 坊守）